



平成 30 年 1 月 10 日
佐賀大学大学院工学系研究科

2017 年度佐賀大学市民講演会「重力波とその未来」を開催

【概要】

2017 年度佐賀大学市民講演会「重力波とその未来」が平成 30 年 1 月 6 日（土）に理工学部にて開催され、物理科学専攻の 3 名の教員が一般市民に向けた講演を行いました。

【本文】

物理科学専攻では、同専攻での研究内容や物理学全般の魅力を広く市民の方々に伝えることを主な目的として、これまで不定期に市民講座を開催してきました。その一環として、「重力波とその未来」と題した市民講演会を、工学系研究科主催のもと、平成 30 年 1 月 6 日（土）に理工学部 6 号館 1 階大講義室にて行いました。

本市民講演会では、2017 年のノーベル物理学賞を受賞した「重力波の直接検出」の内容を、専門家である物理科学専攻の教員 3 名（高橋 智 准教授、船久保 公一 教授、橘 基 准教授）がわかりやすく解説し、その重要な意義とそこからさらに広がる未来への展望について説明しました。

重力波とは時空のゆがみによって生じる「さざ波」で、非常に重い天体が動いたり、衝突したり、爆発したりすることで生じ、また宇宙の初期に生じるともいわれているものです。

高橋准教授は「重力波とは何か」と題して、重力波の基本的な内容について平易に解説しました。また「宇宙を見る『新しい目』」としての重力波という観点からの説明もありました。

船久保教授は「初期宇宙から届く重力波」と題して、私たちの宇宙の成り立ちをミクロな世界の素粒子の言葉で解説し、光による観測ではわからない初期の宇宙の姿を重力波で捉えることが可能かもしれないことや、初期宇宙において重力波が生じるメカニズムについて説明しました。

橘准教授は「マルチメッセンジャー天文学の幕開け」と題して、2017 年に観測された中性子星連星合体による重力波検出とその将来への影響の大きさについて解説し、来たるマルチメッセンジャー時代の主役となる中性子星という天体の様々な性質や謎について説明しました。

本講演会には小学生から 70 代まで幅広い年齢層の約 120 名の参加があり、市民の方々の関心の高さがうかがえました。



渡研究科長による開会の辞



講演の様子